

解剖学による裸婦素描と 古典技法で描く人物

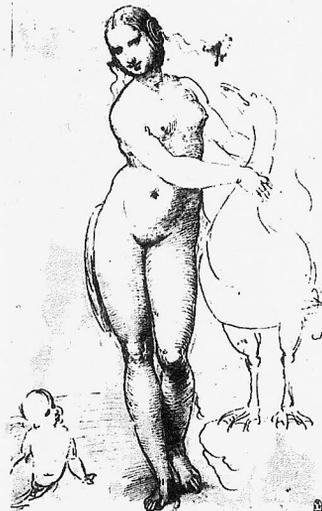
講師 元ルーブル美術館修復員・絵画修復家 加賀優記子

この講座では、まず人体の骨格、筋肉のつき方などの知識を学び、それから人体素描に入っていきます。これと同時に鉛筆や墨など、さまざまな表現方法での素描を体験します。

モデルには、最後にダンスの動きをしてもらい、描く側も体全体を使って、おおらかに作品を描くことを体感して頂きたいと思います。

後半は、古典的な油彩の描き方を、スライドやビデオで多くの巨匠作品を鑑賞しながら解説します。そして、このように学んだ技法を生かしつつ、着衣のモデルを制作します。

(講師・記)



〈講師紹介〉 かが・ゆきこ

1982年武蔵野美術短期大学油絵専攻科卒業。84年渡仏。パリ国立美術大学に学ぶ。86年ルーブル美術館修復家クリストフ・クシェジェンスキー氏に師事。氏の弟子として、ルーブル美術館契約修復員となり、ルーブル宮殿天井画、コングルの間、ドラクロワ作サルダナパリュスの死、他の修復作業に従事する。92～94年フランス国会議事堂ドラクロワ天井画他修復研修。90年「鎌倉美術修復工房」設立。ルノワール、モネ、ピカソ、レジェ、フジタ他日本の画家多数修復。

IIC (THE INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CONSERVATION) 会員。